



“TEAM FUKUOKA” 7位に浮上ここからが正念場！

ライバル県 千葉を抜き 総合成績 7位に浮上！！

6日、TEAM FUKUOKAの活躍が目立った。陸上競技やソフトテニス、ウエイトリフティングなどにおいて、入賞が相次いだ。

陸上競技では、**少年女子共通800mにおいて、山口真実選手(北九州市立高校)が見事頂点**に立った。また、成年女子砲丸投では太田亜矢選手(福岡大学クラブ)が2位、少年男子B100mでは重谷大樹(九産大九産高校)が3位に入るなど、6日だけで計7名が入賞を果たした。それでも、県選手団片峯隆副団長は、「陸上競技の入賞者数はある程度想定していたが、もう少し上のレベルの入賞がほしい。」と、今後の更なる躍進に期待する。

ソフトテニス少年女子準優勝！

少年女子チームが惜しくも頂点を逃した。『優勝』こそ逃したが、堂々の準優勝に大きな拍手を送りたい。

決勝の相手は強豪東京都。今年のインターハイ個人戦(ダブルス)の優勝者が、国体では第1ダブルスとシングルスに別れて登場。

対するFUKUOKAの第1ダブルスは、昨年インターハイ準優勝ペアである原口美咲・久保菜月組(ともに中村学園女子高校)。試合は、原口の豪打と久保のボレーが炸裂し、本県が主導権を握るももつれた展開に。最後は東京都に軍配が上がったが、観客を魅了するレベルの高い試合であった。第2試合(シングルス)は正確なショットの谷水鈴香選手(中村学園女子高校)が、相手選手のパワーあふれるフォアハンドに真っ向から対抗。残念ながら、この試合も落とし、準優勝になったが、会場は、両チームを称える拍手が鳴り止まなかった。

ウエイトリフティング入賞者続く！

5日、成年男子56kgスナッチ種目で優勝した前田選手に続き、6日、少年男子62kg級では、向井 滉耀選手(八幡中央高校)が、スナッチ4位、クリーン&ジャーク5位に入賞した。また、成年男子105kg超級では、白石宏明選手(自衛隊体育学校)が、スナッチ3位、クリーン&ジャーク5位に入賞を果たした。白石選手は、来月行われる世界選手権出場が決まっており、今国体は階級を上げての出場。世界の舞台での活躍を期待する。

柔道女子チーム好発進！

6日、柔道女子の戦いが始まった。2回戦は三重県に3-1、3回戦は和歌山県に2-0で勝利。7日の準々決勝熊本県戦へと進んだ。熊本に勝利できれば、準決勝は、兵庫・福井の勝者、決勝は、神奈川・埼玉・愛媛・鹿児島との勝者と対戦する。

その戦いに向けて、試合後も、三村文吾コーチ(北九州市立足立中学校)らの丁寧な指導が続いた。



【優勝した前田選手】



【アドバイスする三村コーチ】

6日終了時点での総合成績順位		
順位	都道府県名	獲得点
1	福井県	2305.5
2	東京都	1874.0
3	埼玉県	1543.0
4	神奈川県	1403.5
5	愛知県	1393.5
6	大阪府	1381.5
7	福岡県	1331.0
8	千葉県	1270.5
9	北海道	1184.75
10	兵庫県	1149.5
17	茨城県	912.5

*黄色は、昨年の結団式で示したライバル県



【原口選手(左)と久保選手】

今後の実施競技

残り3日間で行われる競技は、

- ①陸上競技(7・8・9日)
- ②新体操(7日)
- ③ウエイトリフティング(7・8日)
- ④ソフトテニス(7日)
- ⑤柔道(7・8日)
- ⑥バドミントン(7・8日)
- ⑦山岳(7日)
- ⑧アーチェリー(7・8日)
- ⑨空手道(7・8日)
- ⑩トライアスロン(7日)

TEAM FUKUOKAの想いを胸に精一杯やり抜いてほしい。

県民5,071,968人と共に戦おう！

(2017年9月30日現在)

国体の情報については、大会ホームページ (<http://fukui2018.pref.fukui.lg.jp/>) より、ご覧ください。

※Facebookにおいても情報発信を行っています。「ふくおかスポネット」で検索してご覧ください。

【発信元】福岡県立スポーツ科学情報センター スポーツ推進課 企画情報係